|  |
| --- |
| 平成３０年度　校長室だより　　NO.　７**礎**平成３０年１０月１６日 |

**山本宗平先生**

担任をされた池端先生にとっては、このタイトルには違和感があるかもしれませんが御容赦ください。

夏休み前に本校の卒業生でいらっしゃる山本宗平先生から、橘小学校創立40周年を記念して絵画を贈呈したいとの申し入れがありました。ちょうど、９月に静岡伊勢丹で個展が予定されていたので、それに合わせて贈呈式を９月２６日に行いました。

せっかくの機会ですので式の前に５年生を対象にワークショップをやってもらいました。子供たちは普段画家とふれあうことはないだろうと、画家はどんな道具を持っているか、実際に筆や絵の具、油、パレット、イーゼル等を見せてくれました。また、油絵を描くためのキャンバスの張り方をやって見せてくれ、最後にモデルに立候補した女の子（麻生琉衣さん）を描いてくれました。描き始めにいきなり画用紙を４Ｂの鉛筆で塗りつぶし始めたのには驚きました。ものの10分くらいで描き上げ、さすがプロの画家の作品は違うなという印象でした。その後、たくさんの子供たちからのいろいろな質問に丁寧に答えてくれました。質問がたくさん出るということは関心が高いということで山本先生は大変喜んでいました。ワークショップ後は５年生と一緒に給食を食べ、その際にもいろいろな質問に答えてくれたり５年生の絵を見て褒めてくれたりしたそうです。

　贈呈式の前後に山本先生と話す機会が少しありましたので紹介します。

今回贈呈された作品「あのころ」のモデルは小学校１年生の山本先生の娘さんですが、この作品は３～４日で描き上げたそうです。ほとんどの画家はまちがいなく多作だそうで、このくらいのペースで描かないと生計が成り立たないのだそうです。デッサンを含めると今までに１万作品は越えるだろうとの話でした。ただ、橘小学校に贈呈するにあたって、どういう題材（人物か風景か）にするか、題材が決まった後はどういう構図で動きは色はどうするかという構想にはずいぶん時間をかけたそうです。ちなみにこの作品は山本先生にとって最新作です。自分の娘さんの絵ですからさぞかし力を込めて制作したに違いありませんし、何より娘さんにプレゼントするのが一番かと思って「贈呈していただきましたが、預かって飾らせてもらうという形でどうですか」と申し上げたところ、「私は贈呈するつもりで描いていますから」「画家とはそういうものです」「娘の絵はたくさん描いてますから」と言われ遠慮なくいただくことにしました。

なぜ画家になったのですかという問いには、まずは絵を描くことが好きだったからと答え、描いた絵を上手だと褒めてくれる人が身近にいて、支えてくれたからと答えてくれました。小学生の時はそれほど上手ではなかったけれど褒めてもらったことがすごくいい影響をしているとも。画家になるには才能ですか努力ですかの問いには、才能があって努力して、しかも支えてくれる人がいないとなかなか画家になれないと。

小学生の絵は素直でのびのびしていい。けれど素直さがいつまで保ち続けるか、また、絵に色気？しかけ？主張？（言葉をしっかり聞き取れませんでした）がないといけないからとも話していました。

贈呈式の時にも触れましたが、2012年に求龍堂から「世界は物語で出来ている。」という画文集を出しました。その中の「世界は物語で出来ている。人が人と関わり、人が人を求めている。そこに物語が生まれる。文学で、音楽で、絵で。僕は絵描きだから、絵を描く。」の一節が山本先生の画家としてのキャリアを表しています。また、先生の絵は、物や人を見えたように描く絵で、時に、写真と比較されますが、「（絵と写真）魅力はそれぞれです。写真は本当の一瞬を、絵画は希望の一瞬を見せるものと私は思っています。」と答えています。若いのに考え方がしっかりしているなと思いました。

贈呈式の前、池端先生と山本先生が図工室の前で出会い、しばし昔話に花を咲かせる場面がありましたが、20数年時間がバックし、６年生と担任との語り合いのようでした。私には二人がとても楽しそうで輝いて見えました。

１０月１０日（水）に再び山本先生は本校を訪れ、個展のため飾ってあった「あのころ」を改めて寄贈してくれました。

早速、その日に松山さんが校長室前の壁に作品を飾ってくれ、１６日にはスポットライトをつけていただきました。寄贈された「あのころ」がさらに輝いて見えます。橘小学校の宝物一つ増えました。

ありがとうございました。